昆虫類　＜チョウ目　タテハチョウ科＞　　愛知県：準絶滅危惧　（国：リスト外）
INSECTA　＜LEPIDOPTERA　NYMPHALIDAE＞　　AICHI：NT　（JAPAN：－）

オオヒカゲ　*Ninguta schrenckii* (Ménétriès)

【選定理由】

かつては愛知県の低山帯にかけて生息し、産地を訪れれば確認できる種であったが、近年は生息地の環境変化が著しく、産地そのものが消滅した所も多く、本種も減少している。

豊田市上高町, 2003 年 6 月 29 日, 高橋匡司 撮影

【形　態】

前翅長 40mm 程度。日本産最大のジャノメチョウで、同定を誤る近似の種はない。色彩斑紋は♂♀大差ないが、♀は翅形がやや広く翅の地色は淡色、後翅表の黒円斑列が大きく目立つ。後翅内縁基部には、♂では銀灰色に目立つ性標があり♀はこれがない。

【分布の概要】

【県内の分布】

本県では瀬戸市、豊田市（旧豊田市、旧足助町、旧小原村、旧旭町、旧下山村、旧稲武町）、新城市（旧新城市、旧作手村）、設楽町、豊根村などから記録されている（巣瀬ほか, 2003）。

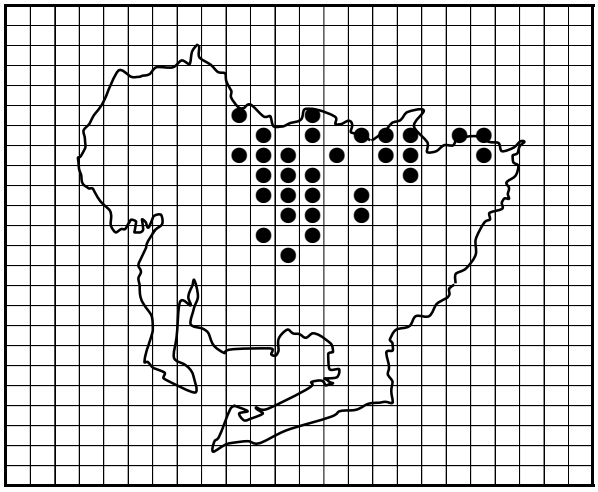
【国内の分布】

北海道と本州に分布する。四国・九州にかけては知られていない。東北地方は全県に分布しており、また長野県や新潟県では産地が多く、個体数も多いが、この両県を除くと産地は局地的となる。

【世界の分布】

朝鮮半島、中国東北部、中国西部、ロシア南東部、チベットに分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

林内の湿地などに生育するやや大型のスゲ科の植物を幼虫が食べるので、このような環境に発生する。成虫は林の中だけでなく、その周辺の道にもよく出現する。

成虫は直射日光の乏しい林の中の葉上や樹木の幹にとまっていることが多い。飛び方はゆるやかで、発生地をあまり離れない。

年 1 回発生、愛知県の低地では 6 月中旬から成虫が見られるようになる。終齢幼虫は 70 mm にも達し、特徴のある食痕から発見は容易である。

【現在の生息状況／減少の要因】

瀬戸市や旧豊田市での生息は著しく減少したが、その一方では新産地も見つかっている。かつて容易であった卵、幼虫などの観察も最近ではほとんど不可能になった。大型のチョウであり、見逃すこともあまりない種でありながら、採集・目撃の記録例は少なくなっている。減少の理由は明らかでない。水辺に自生する大型のスゲ科植物が以前と同様に見られても、本種がいなくなった所も多い。

【保全上の留意点】

かつての生息地であった湿地の保全が必要である。

【特記事項】

夕方は活発に飛翔する。

【引用文献】

巣瀬 司ほか, 2003. 22. 愛知県. 日本産蝶類の衰亡と保護第 5 集. 日本産蝶類県別レッドデータ・リスト(2002 年): 82-87. 日本鱗翅学会, 東京.

【関連文献】

白水 隆, 2006. オオヒカゲ. 日本産蝶類標準図鑑: 213-214. 学習研究社, 東京.

（2009 年版を一部修正）